AK)，安芸郡経が岳（田中喜一，May 19, 1906 MAK)，宇治山田市樟部（孫福　正，May 7, 1933 TI)，藤原岳（原　寛，May 5, 1956 TI)．滋賀県比叡山（立石他，Apr. 20, 1980 TI)．京都府鞍馬（山崎　敬，Apr. 7, 1948 TI)，貴船（大井次三郎，Jun. 9, 1937. Isotype of *S. iinimae* Ohwi TI)，南桑田郡篠村（荒木，May 27, 1934 TI)．北桑田郡竜が岳（荒木，May 20, 1934 TI)．大阪府金剛山（中井猛之進，Nov. 1920 TI)．四国：徳島県，邦賀郡大竜寺山（伊延敏行，Nov. 23, 1940 TI)，石立山（山崎　敬，Aug. 12, 1976 TI)．高知県吾川郡名野川村（渡辺　協，Apr. 1, 1890 TI)，矢筈山（矢田部，Aug. 8, 1888 TI)．九州：福岡県英彦山（山崎　敬，May 5, 1959 TI)，甘木市馬見山（手島・筒井，May 23, 1984 TI)，朝倉郡安川村（鍋島与市，May 20, 1929 TI)．長崎県国見山（外山三郎　TNS)，長崎（Graetrex, Aug. 1931 TI)．雲仙（Graetrex, May 1930 TI)．熊本県球磨郡五木村（中島濤三，Apr. 1908 TI)，人吉（no leg. Apr. 16, 1939 TI)．鹿児島県宮之城町（土井美夫，Aug. 2, 1926 MAK)，伊佐郡大口（村松七郎，Apr. 20, 1935 TI)，鹿児島市（富樫　誠，Apr. 29, 1946 TI)，財部町大隈大川原（初島・迫，Apr. 22, 1962 MAK)，桜島（田代善太郎，May 20, 1913 TNS)．

（東京大学理学部附属植物園）

レブンサイコについて（山崎　敬）

Takasi YAMAZAKI: On *Bupleurum triradiatum* Adams ex Hoffm. var. *alpinum* Rupr. in Sakhalin and Hokkaido

レブンサイコはFr. Schmidt（1868）が，種類としてはロシアのBaikal付近から記載された*B. triradiatum* Adamsとし，その変種として，カムチャツカから書かれたvar. *alpinum* Regelに同定して以来それに従ってきた．日本では比較する標本が無かったのでやむをえない処置である．1993年の国際植物学会で，来日したロシアのKrasnoborov氏は，東大のレブンサイコの標本に*B. ajanense*（Regel）Krasnob.と記入し，*B. triradiatum*とは別の種類であるとの見解を示した．1992年にAltai, 1993年にWest Sayanで，都立大学を中心に調査が行われた．その際，両所で*B. triradiatum*を採集してきた．最近その標本を調べることができたが，Krasnoborov氏の見解どおり，両者は別の種類とすべきであることが明らかになった．

B. triradiatum（Fig. 1. a）は一般に丈が高く13-30cmあり，根出葉は線状披針形また線状倒披針形で先が尖り，小花序の柄は長さ2-5cm，小総包葉は一般に黄緑色である．レブンサイコ（Fig. 1. b）は丈が低く，高さ5-15cm，根出葉は狭いへら形で先は鈍いかやや尖り，小花序の柄は長さ0.5-2.5cmで，小総包は緑色である．オホーツク沿岸の標本がないのでアヤンから報告されたvar. *ajanense*がレブンサイコと同じものかどうか確かめられないが，同じものとするKrasnoborov氏の見解を信用するほかない．Var. *alpinum* Rupr.はカムチャツカから記録されたものであるが，これは近縁の別の種類*B. arcticum*（Regel）Kos.-Polj.（Fig. 1, c）とされる．これはレブンサイコより*B. triradiatum*のほうに近い，レブンサイコは千島，北海道，本州北部（白神山地），サハリン，オホーツク沿岸に分布する．学名は*Bupleurum ajanense*（Regel）Krasnob.となる．この学名はKrasnoborov氏が横浜での国際植物学会で講演し，講演要旨に記されている．そこには異名となるもとの変種名とその出典も記されている．講演要旨であっても国際的に広く配布されているので，有効なものと見てよいであろう．以下にレブンサイコの学名を整理しておく．

*B. triradiatum*の標本を採集し，その研究をさせて下さった，都立大学の若林三千男氏に深謝します．

Bupleurum ajanense（Regel）Krasnoborov in XV

Fig. 1. *Bupleurum triradiatum* and allied spp. a. *B. triradiatum* Adam. Altai, Kosh-Agach (Wakabayashi & al., Jul. 19, 1992, MAK). b. *B. ajanense* (Regel) Krasnob. Hokkaido, Mt. Yubari (Hara, Jul. 24, 1933 TI). c. *B. arcticum* (Regel) Kos.-Polj. Chuckchee (Drzeb & al., Aug. 4, 1971 TI).

Internat. Bot. Congr. (Yokohama), Abstract : 255 (1993).

Bupleurum ranunculoides L. var. γ . *ajanense* Regel in Regel et Triling, Fl. Ajan.: 97 (1858).

Bupleurum triradiatum Adams ex Hoffm. var. *alpinum* auct. non Rupr.: Fr. Schm., Fl. Sachal.: 135 (1868).

Bupleurum triradiatum Adams ex Hoffm. var. *ajanense* (Regel) Kos.-Polj. in Act. Hort. Peterop. **30**: 200 (1914).

（東京大学理学部附属植物園）

琉球からのヒメケフシグロの１新変種と台湾で発見されたフシグロ（山崎　敬）

Takasi YAMAZAKI: A New Variety of *Silene aprica* Turcz. in the Ryukyus, and *S. firma* Sieb. et Zucc. Newly Found in Taiwan

ヒメケフシグロ *Silene aprica* Turcz. はシベリア東部，満州，中国，朝鮮に広く分布するが，日本では九州北部（福岡県，長崎県），四国（香川県），本州（岡山県）にしか知られない希少植物である．ところが琉球からケフグロ *S. firma* Sieb. et Zucc. f. *pubescens* (Makino) Ohwi et Ohashi として報告されているものは，茎や花柄に毛があるだけでなく，萼筒にも短毛が密生していて，萼筒が無毛のフシグロとは異なり，種としてはヒメケフシグロに属す．ただ花柄が短くて花がやや密集した花序を持ち，果実は球状楕円形である（Fig. 1.a）．ヒメケフシグロは一般に花柄が長く，まばらに花をつける傾向が強い．また果実は楕円形であることが普通である（Fig. 1.b）．琉球のものはヒメケフシグロとしては最も東の端に分布していて，分布もやや離れているので，ヒメケフシグロ

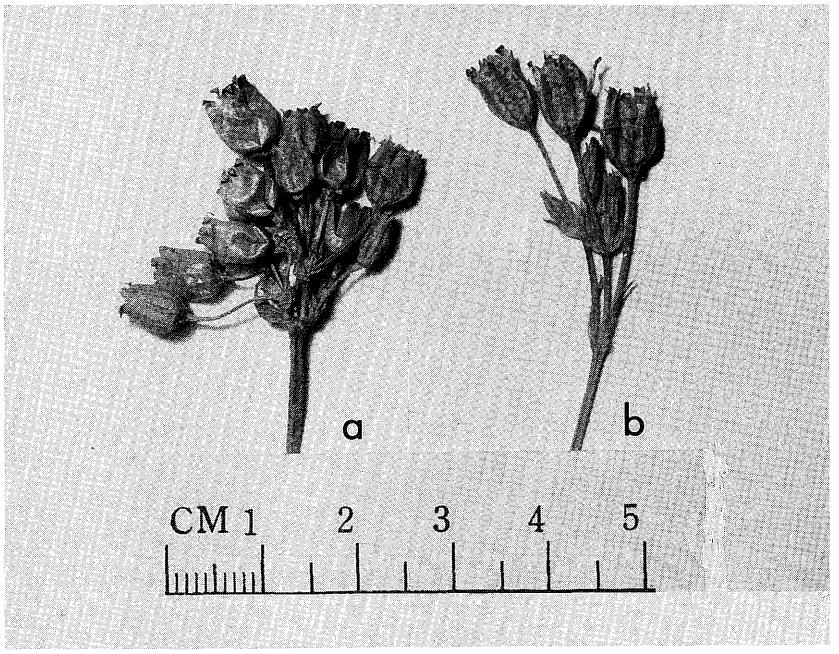

Fig. 1. Inflorescences of *Silene aprica* Turcz. a: var. *ryukyuensis*. Ryukyu, Is. Iriomote, Hoshitate (H. Ito, May 18, 1936). b: var. *aprica*. Amur, circa Blagowiestschensx (F. Karo, Jul. 1905, no. 630).